

# 東海大学 公募制学校推薦型選抜対策講座

2020年 駿台予備学校現代文科講師 今井愛子

## 1 入試方法の特色

・本学を第一志望（専願）とし、出身学校長の推薦を受け、学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）ある方を対象とする入試です（ただし、教養学部芸術学科及び体育学部は、原則としてB段階以上であること）。

選考基準〈体育学部以外の学部〉

1. 志望する学部・学科・専攻・課程に対する理解と興味をもち、強い目的意識を有すると認められる者。
2. 志望する学部・学科・専攻・課程に関連する学力に優れ、または適性・能力を有すると認められる者。

選考基準〈体育学部〉

1. 志望する学科に対する理解と興味をもち、強い目的意識を有すると認められる者。
2. 志望する学科に関連する学力に優れ、スポーツ技能またはスポーツ活動の成果が秀でていと認められる者。

（東海大学 入試情報2021 より）

▷ 公募制学校推薦型選抜＝東海大学を第一志望（専願）とし、出身学校長の推薦を受けて受験する入試

▷ 公募制学校推薦型の条件＝志望する学部・学科・専攻・課程に対する理解と興味を持っていること  
目的意識が高いこと

▷ 第一志望である東海大学のことをよく知るのはもちろん、志望する学部・学科・専攻・課程に対してもしっかりとした考えを持つ必要があります。

「なぜ、東海大学のその学部に進学したいのか？」を自分なりに考える習慣を身に付けましょう。

## 2 選抜方法

- 1 本学所定の書類による書類審査
- 2 小論文（60分間、800字以内）
- 3 面接試験（口述試験\*含む ※内容については入学試験要項を参照）
- 4 専門試験（教養学部芸術学科音楽学課程）
- 5 作品またはレポート提示（教養学部芸術学科美術学課程）
- 6 作品提示（教養学部芸術学科デザイン学課程）
- 7 実技試験（体育学部）

**\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在、受験生が「試験場に来場しないで実施可能な試験方法への変更」を検討しています。既に配布している「東海大学2021年度公募制学校推薦型選抜入学試験要項」、「東海大学入試情報2021」に記載されている試験方法からは変更になりますのでご注意ください。試験方法は検討中ですが、通常どおりの入学試験が実施されるようなつもりで準備・対策を進めてください。変更後の最新情報は、東海大学オフィシャルサイトを必ずご確認ください。**

- ▷ 一般選抜（旧一般入試）に比べ、「個性」と「専門的な能力」の判断が可能。
- ▷ 「個性」や「能力」には、「正解」など無い！？  
それなら「小論文」には「何を書いても良い」のか？というのと、それは違います。  
なぜなら、「入試」である以上は「採点されるもの」だからです。  
「良い答案」が、必ず存在するのです。

### 3 「小論文」という科目

本学の入試問題の小論文は、現代社会の抱える問題・テーマなどについて課題が出題される傾向にあります。具体的な現実問題・課題と関連させて考え、まとめ上げる能力が大切です。受験対策として、さまざまな課題（例えば現代の風潮、世相や最近のトピックスなど）について、広く関心を持って調べておくとう効果的です。

作成された小論文を審査する際には、課題に対する理解力、文章を構成する力、自分の考えを表現する力などを評価します。合わせて誤字、脱字、誤った表現などをチェックします。短い時間と限られた字数（800字）内で、いかに自分の意見をまとめ、表現できるかが対策の課題となるでしょう。

（東海大学 入試情報 2021 より）

- ▷ 課題は、各学部の学問内容に即したものになっています。  
その中で、「現代社会の抱える問題・テーマ」を扱っています。
- ▷ 設問がやや長い場合もあるため、設問文を正しく読み取る「読解力」が必要です。  
その上で、その設問に対する自分の意見を持つことが重要です。
- ▷ 小論文の「採点基準」には、以下が考えられます。
  - A 読解力＝正しく設問文を読み取れる力
  - B 説得力＝論を構成する力
  - C 発想力＝自分なりの意見を考え出す力（オリジナリティー）
  - D 文章力＝正しい日本語の力（てにをは・語彙・漢字）

### 4 「小論文」を書く手順

- ① 課題文を読む（→読解力）
- ② 書くことを探す（→発想力）
- ③ 書きたいことを分かりやすく、説得力をもって書く（→構成力・語彙と漢字の力・文章力）
- ④ 見直し

▷ ①～③を、バランスよく行うことが必要です。

「①読解力」は、普段の学校等の国語の授業を通して養うことができます。

「②発想力」は、新聞や本を読むといった、様々な方面にアンテナを張ることで取得できます。

また、ニュースなどを見て「私なら、どう思うか」「私なら、どうするか」といったことを考える習慣を身に付けましょう。

「③構成力」は、「自ら書く」ことを通して養うことができます。

今まであまり文章を書いてこなかったという人もいるでしょう。

これから、意識的に文章を書くよう心がけましょう。

また、自分で書いていても文法的表現的な誤りには気付きにくいです。

ですので、教員等の身近な大人に読んでもらいましょう。

▷ さらに「④見直し」を行えるよう、時間に余裕を持てるように心がけましょう。

## 5 実際に、考えてみよう

(問い)

The Sustainable Development Solutions Network(SDSN)が発表した「World Happiness Report (世界幸福度ランキング) 2019」によれば、フィンランドが2年連続の1位、日本は58位となっています。このランキングでは、①一人当たりの国内総生産 (GDP)、②社会的支援、③健康長寿、④人生選択の自由、⑤社会の寛容さ、⑥社会腐敗の無さ、などから各国の「幸福度」を算出しています。主要国の各項目の順位を一覧表にしたものが下記の表です。もしあなたが日本の「幸福度」向上を願うとしたら、どのような点に着目して、どんなことを達成したいと考えますか。

表を参考にしながら、あなたの考えを述べてください。

国	総合順位	① GDP	② 社会的支援	③ 健康寿命	④ 人生選択の自由	⑤ 社会の寛容さ	⑥ 社会腐敗の無さ
フィンランド	1位	22位	2位	27位	5位	47位	4位
デンマーク	2位	14位	4位	23位	6位	22位	3位
イギリス	15位	23位	9位	24位	63位	4位	15位
アメリカ	19位	10位	37位	39位	62位	12位	42位
日本	58位	24位	50位	2位	64位	92位	39位
ロシア	68位	45位	40位	89位	107位	101位	127位

出典：John F. Helliwell, Richard Layard and Jeffrey D. Sachs “World Happiness Report 2019”

(2020年度公募制推薦入試 小論文課題 政治経済学部 他)

## 手順① 課題文を読む (→読解力)

▷ 課題文は、「幸福度」についての文章です。

「幸福度」は複数の項目を総合的に判断して算出されます。

▷ 「答えなければならないことは何か？」を、正しく読み取りましょう。

今回の設問では、フィンランドと日本の差を表から読み取る必要があります。

- ① GDPは大差無い→幸福度には関係無い
- ② 社会的支援はフィンランドが圧倒的に手厚い→幸福度に関係有り
- ③ 健康寿命は日本の方が圧倒的に長い→幸福度には関係無い
- ④ 人生選択の自由はフィンランドが圧倒的に自由度が高い→幸福度に関係有り
- ⑤ 社会の寛容さはフィンランドの方が多少寛容→幸福度にやや関係有り
- ⑥ 社会腐敗の無さはフィンランドが圧倒的に健全→幸福度に関係有り

▷ ②④⑥に注目して論を組み立てると良さそうです。

なお日本の特徴だけを見ると、「④人生選択の自由」の順位が低いことも読み取れます。

「人生選択の自由」とは、「自分の生活を自分の意思で決めることができる」ことだと考えられます。

高校生にとっても身近な話題。比較的書きやすいのではないのでしょうか。

▷ 表を読む時は、「特徴的な点はどこか」を考えましょう。

## 手順② 書くことを探す (→発想力)

▷ 「日本の幸福度を向上させるために達成したいこと」について考える必要があります。

これは正に、各受験生の個性が反映される部分。

しかし、無理に奇をてらった解答を作る必要はありません。

落ち着いて「達成したいこと」を具体的に考えてみましょう。

(メモ 自分なりに考えたことを、書いてみましょう)

▷ 発想のヒント

「日本の幸福度を向上させるために達成したいこと」と言われても、戸惑ったかもしれません。でも、「人生選択の自由」に絞って考えてみましょう。

- ・好きな学部に進学したい／仕事に就きたいのに、周囲の大人に反対される  
→お金を稼げない／安定しない／男だから／女だからなどの理由で
- ・世の中にどのような仕事があるか知らないので、周囲の意見に頼らざるをえない
- ・ブラック企業に勤めてしまい、仕事ばかりで他の事ができない／自分らしく生きられない
- ・「〇〇するものだ」という周囲の同調圧力が怖くて自分らしく生きられない
- ・やりたいことがあるのに、金銭的理由で諦めねばならない

### 手順③ 分かりやすく、書く (→構成力・語彙と漢字の力・文章力)

▷ 書く順番を決めましょう。

- ①話題の提示 (必要に応じて、問題提起) →10%~20%
- ②展開 (意見の提示や、具体例) →60%前後
- ③結論・まとめ→20%前後

▷ 解答例

「世界幸福度ランキング」の表によると、幸福度の高いフィンランドは「④人生選択の自由」が5位なのに対し日本は64位と大きな差がついている。進学や結婚など人生においては様々な選択が強いられる場面があるが、日本はその自由度が低いようだ。それは、どのような理由によるだろうか。

私は、性別による偏見が根強いと考える。例えば職業を選択する場合、企業には「総合職」と「一般職」があるが、「一般職」は基本的に女性が選ぶものであり男性の志願は少ない。男性は総合職・女性は一般職、というすみ分けは、性差別と言える。また、例えば結婚する際夫婦別性が認められていない日本では夫婦のどちらかが姓を変更する必要があるが、私の周りでは男性が名前を変えた例を聞かない。大半の夫婦は女性が名前を変えることを当たり前のこととしているように思う。こういった例は、他にもたくさんあるだろう。日本は男女雇用機会均等法のもと男女の平等がある程度保障されているとはいえ、まだまだ性差別が根強いのだ。

では、現状をどう変えれば性差別は解消され日本の幸福度は上がるのだろうか。私は差別の解消には意識の改革が必要だと思う。たとえば専業主婦を望む女性の方が専業主夫を望む男性より多いだろう。女性が「男性に養ってもらいたい」という意識を持つとしたらそれは差別を助長するので、そうした意識を改革していく教育も必要だと考える。なお、女性の側だけではなく男性の側の意識も変えていかねばならないことを忘れてはならない。もし男性が「女性が苗字を変えるのは当然だ」と決めつけてしまうなら、女性がどんなに頑張っても意味がなくなってしまふ。

現代はSNSなどを通じ個人の意見を発信しやすい。私はインターネットを利用し現代日本の抱える男女差別や性差による偏見を訴えることで、人々の意識の改革を達成したい。性差別がなくなっていけば、日本人の幸福度も上がるだろうと考えている。